

日本福祉介護情報学会 第15回 研究大会開催案内

大会テーマ

地域生活支援における個人情報活用の課題
～個人情報保護のあり方を問い直す～

会場：藤女子大学 16 条校舎
主会場 D401 教室
自由研究発表会場 D302 教室・D402 教室

日時：2014年9月21日（日）

10時00分 ～ 17時00分

主催：日本福祉介護情報学会

開催校：北翔大学

日本福祉介護情報学会 第 15 回研究大会プログラム

1 大会趣旨

2003年に個人情報保護法が制定され、個人情報取扱い事業者の義務等が規定された結果、個人情報の利用にあたっては本人同意が原則となった。地方自治体も条例等により個人情報の外部への提供について規制が強化され、そうした住民の地域福祉活動に対しての情報提供にも門戸を閉ざす傾向が強くなってきている。その結果、それまで住民が主体的に取り組んできた見守り活動等において支援が必要な個人の把握が困難になり、活動に影響が生じるようになった。

また、地域包括支援センター等の相談支援機関やサービス提供組織間においても個人情報を共有する場合や他の機関に提供する場合に個人情報保護法による本人同意という手続きを経なければなくなり、個人情報の取り扱いにはより慎重さが求められるようになった。

一方、個人情報保護法が施行された以後、個人情報保護法における個人情報といわゆるプライバシー情報が混同され、一切の個人に係る情報の提供をタブー視する誤った理解も生まれており、個人情報保護という名目で、過剰反応というべき現象が生じている。その結果、本来共有すべき情報もなかなか提供されなくなっている。

こうした中で、近年では孤立死の増加、災害時における要援護者の避難支援、認知症高齢者の行方不明、等が課題となってきている。地域において、支援が必要な人、孤立している人に対する働きかけ、行方不明になった認知症高齢者の搜索等を行うには、地域のなかで住民相互が実情を把握していることが必要であるが、現在そうした情報は、住民のもとには届いていない。

各地域で見守りや助け合い活動に取り組む事例が増えてきているが、その中で課題とされているのが個人情報の過度な保護である。地域での見守りや助け合い活動に主体的に取り組もうとしてもその対象が見えてこないのである。行政が保有している情報は、厚い法の壁のために地域にまで到達しないことも多く、民生委員が保有している情報も守秘義務のもとに提供されない。その結果、地域で取り組みたいが情報がないので取り組めないという声が自治会、町内会関係者から出されている。

また、介護保険における地域包括ケアシステムは、医療、介護、予防、生活支援、住まいの各サービスが日常生活圏域で一体的に提供されることを目標としているが、各サービス提供者間の個人情報の共有や、生活支援としての一翼を担う住民の互助（インフォーマルなケア）との協働関係を考えると、情報の共有化が必要不可欠にもかかわらず個人情報保護の壁によって断片的なかわりに終わっている。

そうした中で、市町村においては独自の取り組みを工夫するところもあらわれ、個人情報の取り扱いについて弾力的に対応する事例も生まれている。

そこで、本研究大会では、個人情報保護法が施行されてから10年を経過する機会をとらえて、今後ますます重要になる地域生活支援における個人情報を「活用」の側面から改めて検討し、新たな方向性を模索する。

2 テーマ

地域生活支援における個人情報活用の課題
～個人情報保護のあり方を問い直す～

3 主催

日本福祉介護情報学会

4 開催校

北翔大学

5 日時

2014年9月21日（日） 10時00分～17時00分

6 会場

藤女子大学 16 条校舎

午前 755 教室・756 教室

午後 D401 教室

〒001-0016 北海道札幌市北区北 16 条西 2 丁目

会場問い合わせ先：011-736-0311

《 プ ロ グ ラ ム 》

9 : 30 ~ 受付開始 (藤女子大学 16 条校舎 756 教室)

10 : 00 ~ 11 : 30 **自由研究発表** (藤女子大学 16 条校舎 755・756 教室)

自由研究発表A会場 (755教室)

1 10 : 00 ~ 10 : 30

タブレット端末による訪問介護サービス実施記録システム構築の報告
～現場の実情に合わせる開発手法・技術の現状・今後の論点～

○発表者 三浦 建太郎 (株式会社シーマーク)

2 10 : 30 ~ 11 : 00

シニア向けスマートフォンを活用した見守りネットワーク形成の効果

○発表者 小川 晃子 (岩手県立大学)

共同研究者 鈴木 千紘 (岩手県立大学)

3 11 : 00 ~ 11 : 30

介護サービス提供機関における情報関連業務の実態把握に関する研究
～タイムスタディデータの再分析を通じて

○発表者 大冢賀 政昭 (国立保健医療科学院)

自由研究発表B会場 (756教室)

1 10 : 00 ~ 10 : 30

地域包括ケアシステム構築過程における情報活用の現状
ー介護保険サービス利用水準別保険者分析結果からー

○発表者 長倉 真寿美 (立教大学)

2 10 : 30 ~ 11 : 00

社会的孤立防止のための高齢者実態把握の重要性

○発表者 佐藤 暁美 (立教大学大学院)

3 11 : 00 ~ 11 : 30

高齢者福祉施設における ISO9001 認証取得による情報セキュリティ体制の効果と期待

○発表者 水野 敬生 (社会福祉法人一誠会)

11 : 30 ~ 12 : 30 昼食

12 : 30 ~ 13 : 00 **学会総会** (藤女子大学 16 条校舎 756 教室)

13：00～13：10 開会挨拶（日本福祉介護情報学会代表理事 高橋紘士氏）

13：10～13：40 **基調報告**（日本福祉介護情報学会代表理事 高橋紘士氏）

テーマ「地域生活支援における個人情報活用の課題」

13：40～14：00 休憩

14：00～17：00 **シンポジウム**（藤女子大学 16 条校舎 756 教室）

※途中休憩あり

テーマ「地域生活支援における個人情報活用の課題～個人情報保護のあり方を問い直す～」

- ・ 笠間市における介護健診ネットワークの取り組み～個人情報の活用
前田 みゆき氏（日本福祉介護情報学会理事・日立製作所）
- ・ 福祉マップづくりにおける個人情報の活用
佐藤 和人氏（社会福祉法人札幌市社会福祉協議会）
- ・ 多機関にわたる個人情報の共有と活用
石崎 剛氏（札幌市厚別区第2地域包括支援センター）
- ・ 砂川市高齢者いきいき支えあい条例と個人情報の活用
吉川 美幸氏（砂川市介護保険課）

（コメンテーター） 森本 佳樹氏（日本福祉介護情報学会理事・立教大学）

（コーディネーター） 村井 祐一氏（日本福祉介護情報学会理事・田園調布学園大学）

17：00～ 次回研究大会について

17：30～ 懇親会（北海道食市場丸海屋パセオ店）

7 参加申し込み

- (1) **参加対象** 本学会会員にかかわらず、関心のある方であればどなたでも参加できます。
- (2) **参加申込** 別紙「参加申し込み」書に必要事項を記載し、電子メールまたはファクシミリで、大会事務局 (yhayashi@hokusho-u.ac.jp) までお申し込みください。

※懇親会に参加される方は必ず事前の参加申し込みを大会事務局までお願いいたします。

8 参加費

- ① 会員（一般） 2,000円 ② 会員（学生） 1,000円
③ 非会員（一般・午前午後） 3,000円 ④ 非会員（学生・午前午後） 1,000円

※法人会員は一人2,000円となります。

※当日会員申込をした場合は、暫定会員として会員と同じ参加費になります。

※参加費は大会当日、受付にてお支払ください。

事前の振り込みなどは受け付けておりません。

9 懇親会

- (1) **会場** 北海道食市場丸海屋パセオ店（札幌駅パセオ西出口）
札幌市北6条西4丁目 TEL 050-5834-4479
- (2) **費用** 一般 5,000円 学生 3,500円
- (3) **参加申込** 必ず事前の参加申込を大会事務局まで行ってください。

10 昼食

大会当日はお弁当を取り寄せます。参加申込書に事前予約をご記入ください。
料金は、お茶付き1,000円です。

11 問い合わせ先

【重要】本研究大会に関する連絡はすべて大会事務局までお願い致します

大会事務局：〒069-8511

北海道江別市文教台23番地

北翔大学7号棟5階 林研究室気付

日本福祉介護情報学会 第15回研究大会事務局

TEL・FAX 011-387-3721（直通）

E-mail: yhayashi@hokusho-u.ac.jp

12 学会ホームページについて

研究大会ほか、学会活動に関わるさまざまな情報発信を行っていますので、学会ホームページをご覧ください。

日本福祉介護情報学会(JISSI)のホームページ URL: <http://jissi.jp>

■ 大会会場までのアクセス

会場：藤女子大学 16 条キャンパス

札幌市北区北 16 条西 2 丁目 TEL011-736-0311

※駐車場ありませんので、公共交通機関等でおこしください。

アクセス

地下鉄南北線「北 18 条駅」下車徒歩 5 分。「北 18 条駅」は、地下鉄南北線「札幌駅」で麻生行きに乗車し、二つ目の駅です。

